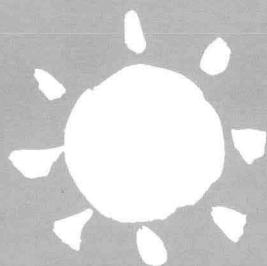


日本作文の会編

日本の 子どもの詩

熊本





日本作文の会編

日本の
子どもの詩

熊本

岩崎書店

日本の子どもの詩 43 熊本

一九八五年二月二〇日 初版発行

編者 日本作文の会

発行者 大川松利

印刷所 株式会社 K・M・S

株式会社 金羊社

製本所 小高製本工業株式会社

発行所 岩崎書店

東京都文京区水道一―九―二
電話(〇三)八二二―九一三一(代)

はじめに

各都道府県別につくられた四十七冊のこの本ぜんたいには、一九一八年「赤い鳥」が創刊されてからあとの六〇年間につくられた、日本の子どもの詩のおもなものが、年代順にならべてあります。

これらの詩は、そのときどきによって、児童自由詩、童詩、児童詩、児童生活詩、生活童詩、生活綴方の詩などともよばれ、世界にもまれなものであります。

これらは、ねっしんな先生たちによる創造的な教育のいとなみとしてうまれたものですが、日本の子ども自身がつくりだした芸術（現代の子どもの「わらべうた」）としても、大きな意味があります。

わたくしたちは、このことを頭において、念入りにこの本をつくりました。

この一冊は、そのうちの「熊本編」であります。どうぞ、ひとつひとつといねいにお読みください。

もくじ



1918
~
1945

12	11	10	9	8
お月様	おうま	にわとり	けむり	あわて鳥
				落穂ひろい
				川口
				雀
				学校
				すすき
				すすめ
				ぬくいひる
				犬
				夕日
				ひし
				鳥
				日暮
				がん

18	17	16	15	14	13
晩	あし取り	日の暮	水たまり	下駄の音	きり
					かたつむり
					かぜ
					フットボール
					ひき潮
					雪
					海
					けいとうの花
					あかとんぼ
					ガラス
					汽車の窓から
					ざぼん
					ひぐれのやぶ道
					しもの朝
					夜
					夏のトマト
					雪
					下駄の音
					水たまり
					日の暮
					あし取り
					晩



1945
~
1959

- 28 あり いもほり
27 秋 ぶらんこ
26 水たまり ごはんたき
25 さやえんどう ゆうがとう
24 やぶれまど 火
23 ひこうとう かさ
川の中
運動会のブルマ
22 雨の音
21 赤ちゃん牛 とかげ
20 あり うま やぎ かぜ

- 39 ぜい金
38 お母さん 戦争のころ
ハーマニカ
井関農機工場見学
37 ろうそく
36 先生のケース シャモ
35 ゴムまり えんぴつ
あかね おかあさん
34 梅の花 たんしゃ
馬
33 みのむし つるしがき
32 おちば あらせダム
31 めがね とうふかい
30 初夏の雨 夕やけ
秋 豆たたき
29 たてごと師 くす

40 水前寺のしみず
火口

石うす

思い出

41 考えるひと

しょうい軍人

42 たそがれ

日雇いたち



1960
~
1969

46 芽

桑ぐみ

水泳

47 はなび

おそろしかった思い出

48 夕立

おかあさん

ちちしほり

49 ままんご

サボテンの花

50 草きり

きり

52 かきうち

53 冬の朝
寒い朝

きしゃとあかちゃん

せんせい

54 おかあさんとおふろにはいったこと

こま

55 草とり

かみさま

56 三川こうばくはつ

だかれて

57 テスト

おにいちゃん

58 うちのばあちゃん

ぼくの鼻

59 とうさん

きもの

きびだんご

60 女の子

いさかい

61 歴史年表

就職だあつ

62 彼女の太陽——水俣病の人に



1970
～

- 64 小さいおかあさんになったこと
はなび
65 夕やけ
とんぼ
あさがお
66 ありをみた
びしょびしょマン
67 夜市
うし
人間の調和
68 おじぎ草のこと
うつくしいこえだ
69 いねのにおい
すすむしさん
70 おかあさんの変身
からすのえんどう
71 父の手
72 い草のどろぞめ
73 いわしあみ
秋のひざし
74 しずかな夕ぐれ
馬とやみと露と

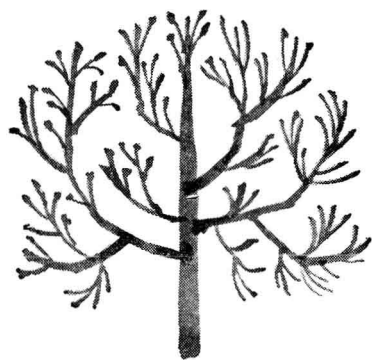
- 75 こい出し
76 秋の日
77 帰り道
78 魚売りのおばさん
もういちどいつてみたい
ざりがに
くも
79 しょんべんまりかぶった
おかあさん
おんぶ
80 ボールさん
じゅうしまつのかっぱちゃん
心の申
81 見たかったなあ
子牛が生まれた
82 おとうさんの足もみ
内しよくをしているおかあさん
83 中国残りゆうこじ
見える見える
84 親というかん字
85 公害
坪井川
86 カブト虫のよう虫
阿蘇は私のもの
87 かげぼうし
88 なくなつたおばあちゃん

100	99	98	97	96	95	94	93	92	91	90	89
心	戦争	十五分の戦いのために	洗たく	母の小指と私の小指 はりこの虎 ^{とら}	小さくても	カールピンソン	運搬船	駅と老人	朝——水俣病の上村智子さんに会って	お母さん	祖母
										悲しい父	道路工事 おふくろ

110	107	106	105	104	103	101
あとがき——熊本県の児童詩指導の歩み この本の編集をした人たち		からゆきさん——「サンタカン八番娯館」を読んで	「海からきた少年兵」をみて	鉛筆の影 私は走る	流れ 捕る	雨あがりの日に ここにも戦争があった 父の釣ったうなぎ 新聞少年

*





1918 ~ 1945

(大正7年)

(昭和20年)

北原白秋が「赤い鳥」の子どもの詩の選をはじめて間もなく、熊本に一人の天才少女詩人が生まれました。「赤い鳥」初期の代表作「ひし」の海達公子です。もちろん、そのほかの大勢の子どももすぐれた詩を書きました。

ここには、そのころからの作品が並べてあります。

がん

がんがん

しつかりとべよ

おうちは

まだとおい

がんがん

しつかりとべよ

日暮

西の空金色だ、

もくれんの花が、

一枚落ちて、

赤ん坊が泣く。

土村きよめ 小6

下益城郡海東校

小関政喜 高2

熊本市春竹校

8

鳥からす

葉わらこずみに、

鳥が一羽、

秋の暮。

ひし

とがった

ひしのみ、

うらで

もすが

ないた。

村田朝明 高2

熊本市春竹校

海達公子 小2

玉名郡荒尾北校

夕日

海達公子 小2

もうすこうしで

ちっこうの

さきにはいるお日さん。

がたにひかって、

まばゆい、

まばゆい。

玉名郡荒尾北校

ちっこうⅡ三池築港突堤。

犬

海達公子 小3

あぜ道を通る犬

田にうつっている

玉名郡荒尾北校(指導)松尾トドメ



9

ぬくいひる

海達公子 小3

学校で

はおりをぬいだ

かえって

れんげそう

つみにいこう

玉名郡荒尾北校(指導)松尾トドメ

すずめ

本田ミエ子 小3

ちゅっちゅっ

すずめよとんでおいで

でんしんせんから

とんでおいで

わたしのおててに

とんでおいで

ちゅっちゅっちゅっと

とんでおいで

熊本市向山校

すすき

海達公子 小3

さら　さら　すすき

お山のすすき

おててのばして

なにさがす

あおいお空に

なにさがす

玉名郡荒尾北校(指導)松尾トドメ

学校

海達公子 小5

学校へきたら

たった一人であつた

机つくえたたいたら

教室一ぱいひびいた

玉名郡荒尾北校(指導)松尾トドメ

10

雀すずめ

海達公子 小5

ふわっとつんだ

雪の上を

雀がちよつちよと

あゆんでく

足かたはちよつちよと

ついていく

玉名郡荒尾北校(指導)松尾トドメ

川口

海達公子 小6

ときわの穂ほが、

夕風になびいている。

川口へ来た。

あびている

みんなの声をとおして、

高々と帆ほをあげる音。

吹きとばされそうになった

帽子^{ぼうし}をおさえた。

沖の光に、

かもめが飛んだ。

落穂^{おちぼ}ひろい

麦の穂をひらう

おばあさん、

袋^(しよっている)をかうている。

どこの

おばあさんだろうか。

雲仙嶽^{うんぜんだけ}も

くれかかっている。

どこの

おばあさんだろうか。

玉名郡荒尾北校

海達公子 小6



あわて鳥

黒い服きた鳥

三羽ならんとんできた

西の夕焼けさして

お山が火事だといいな

ながら
息せききつてとんできた。

熊本市白坪校

四宮テイ 小5

けむり

とおくに見えるのは

なんじやろか。

ああ、

けむりとわかったよ。

佃チヨ 小2

宇土郡轟校



にわとり

前田初行 小4

お月様

水本 浩 小2

コッコッ

にわとり

だれもない

しずかなかな

コッコッと

ひとり

さびしかろう

天草郡栖本校

12

かたつむり

本原辰男 小6

おうま

永田 充 小2

雨は降る降る

かたつむり

ぬれた青竹あぶないよ

急いでのぼっちゃいけないよ

落ちたらおうちがこわれるよ

のっそりのっそり青竹の

とうとう

上までのぼりついた

おうまは道のほしぐさたべに。

子うまもおともでほしぐさをたべに。

八代郡千丁校

八代郡千丁第二校

いかにも

きつそうにこつちを見て
身をちぢめたりのぼしたり

天草郡栖本校

きり

煙のようなきりが、
野をなで木をなで

飛んでくる。

ふわりふわりと

飛んでくる。

早井留男 小 6

天草郡栖本校

かぜ

「がた、がた。」

「だれだ、だれだ。」

「北から吹いてきた北風だ。」

池田東洋 小 4

飽託郡河内林校

フットボール

ふまれけられ走りゆく
前から横から後ろから
もまれもまれてつかまれて
一二の三で青空へ
風おしきって飛び上がる

小山義人 小 5

天草郡栖本校

ひき潮

潮^{しほ}がひいて行く。
浮いていた船が
ごろごろ横にねてしまった。
どこからか
もう子供がきている。
砂をあさっている
だんだん遠くひいて

東重臣 小 4

石垣や岩の

かきながらかわいていく。

天草郡河村校

雪

私がほりを見ていると

雪がほりの中へ

ちらちらちる

すると

ほりの中からも

雪が上に上がりよるように見えた。

藤本藤男 小5

玉名郡梅林校

海

海は青々としているなあ。

みんなが楽しそうにおよいでいる。

ああ、わたしもおよごしたるけども

村戸馨 小3

およぎきらぬから

およぐけいこしななければならないなあ。

葦北郡日奈久校

けいとうの花

けいとうの花がさいている。

一つとりたいがなあ。

とると

おかあさんからしかられる。

岡部隆 小3

葦北郡日奈久校

あかとんぼ

あかとんぼ、

手をだせばぱつととぶ。

また

手をだせばぱつととぶ。

ああとんぼ

谷川秀義 小2